

文学

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義で日本文学においては、日本近代文学の巨匠夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは何か、彼の文学の人生についてアプローチし彼の心を理解する。中国文学から受けた影響、そして西洋文学から受けた影響を学ぶことで漱石についての理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス明治時代の日本文学について説明する。
2	夏目漱石という人物について、人生歴、交友、側面からアプローチする。
3	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
4	熊本小天温泉を舞台にした『草枕』の背景について初期の文学観について学ぶ。
5	『草枕』を読みながら作者の西欧文化に対する考えを理解する。
6	夏目漱石のイギリス留学について説明する。
7	『永日小品』を読みながら夏目漱石がイギリスに対する印象を理解する。
8	『永日小品』の「下宿」を解説する。
9	『永日小品』の「印象」を解説する。
10	『永日小品』の「昔」を解説する。
11	『永日小品』の「過去の匂い」を解説する。
12	『永日小品』の「暖かい夢」を解説する。
13	夏目漱石の作品を読みながら中国文学から受けた影響を理解する。
14	『草枕』を読みながら作者の東洋文学に対する考えを理解する。
15	夏目漱石の作品を学んだ総まとめ。

【履修上の注意事項】

夏目漱石の作品を読んでいくが講義の時間だけでは限りがあるので、予習と復讐など積極して頂ければよりスムーズに講義が進むことができる。

【評価方法】

授業内に課す小レポート（40点）＋学期末試験（もしくは学期末レポート）（60点）

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

課題図書は授業時に適宜紹介する。

心理学 I

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

対人サービス領域の専門職に必要な心理学理論、心理学的な支援技法を学習し、心理学的な視点から人間を理解し、個人が直面し、抱える問題を心理学的に捉えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、心理学における”行動”
2	感覚・知覚の現象、理論と心理学的理解
3	欲求・感情の理論と心理学的理解
4	認知と動機づけの理論と心理学的理解
5	記憶・学習・知能（創造性）の理論と心理学的理解
6	成長と発達の理論、老化の現象の心理学的理解
7	発達段階と発達課題、心理的危機の理解
8	集団、組織、社会と個人の関わりの理解
9	パーソナリティ、性格の心理学的理解
10	環境への適応とストレス、対処行動の理解
11	ストレス症状とこころの健康の心理学的理解
12	心理学的支援技法ー心理検査、アセスメントーの理解
13	心理学的支援技法ーカウンセリング、相談支援技法ーの理解
14	心理学的支援技法ー多様な心理療法ーについての理解
15	まとめ

【履修上の注意事項】

途中でレポートを課します。シラバスに沿った進行に合わせてテキストの予定ページを確かめ、予習を行うこと。授業中に配布されたプリント内容をテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること

【テキスト】

テキスト『心理学 カレッジ版』医学書院

【参考文献】

必要の都度、指示する

法学 I

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日の社会で要求される法感覚、さらに私たちが日常生活を送る上で必要な法知識を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①社会生活における法的作用および役割、②民法の財産法および家族法の基本的な考え方、③医療・福祉サービス利用者の権利とその救済方法、④成年後見制度および日常生活自立支援事業、⑤医療・福祉職の専門性と法的責任

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	法と日常生活——講義計画の紹介、何をどこまで学ぶか、法というものの考え方
2	家庭生活と法（1）——親族の範囲・効果
3	家庭生活と法（2）——婚姻・離婚とその効果
4	家庭生活と法（3）——相続の一般原則、法定相続と遺言相続、相続をめぐる諸問題
5	消費生活と人権（1）——悪質商法の法的問題点、物権と債権の基本的異同
6	消費生活と人権（2）——クレジット取引の仕組み、契約の拘束力・相対性
7	刑事手続きと人権（1）——法的責任、犯罪と刑罰、刑務所と前科
8	刑事手続きと人権（2）——不法行為責任と刑事責任の異同、行政上の処分の独自性
9	医療・福祉サービスに関わる法（成年後見制度と日常生活自立支援事業、行政行為と行政争訟）
10	医療・福祉専門職の根拠法（医療・福祉職の専門性および資格、社会福祉各法の適用対象者）
11	医療・福祉職の連携（看護・介護事故、看護と介護の関係、職務の専門性と就業問題）
12	病院・施設の設置基準と法律問題（医療・福祉サービスの公共性、設置基準の法的拘束力）
13	障害者の雇用・就労支援（障害者雇用促進法、法定雇用率、勤労の権利と義務）
14	ふたたび人権を考える（雇用対策と差別の禁止、労働市場における公正、人権の普遍性）
15	医療・福祉職と法（高齢社会における課題と役割分担、行為準則としての法）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2017年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

法学Ⅱ（日本国憲法）

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

医療・福祉さらには教育の実践にあたって必要な憲法感覚を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

- ①日本国憲法の基本原理、②基本的人権の意義および機能、③基本的人権を保障するための仕組み（国および地方公共団体の組織・権能・財政）、④行政情報へのアクセス（情報公開）、⑤行政の役割と法治国家原理（行政行為、行政手続き、行政不服審査・行政訴訟）

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	取引社会と医療・福祉の権利（取引社会のルール、契約原理の修正、国家と個人）
2	日本国憲法の考え方（人権規定の私人間効力、裁判例の分析、人権という思想）
3	日本国憲法の構成（三つの基本原理、基本的人権のカatalog、人権保障の仕組み、特別条項）
4	基本的人権と公共の福祉、基本的人権の主体（内在的制約と外在的制約、外国人・法人の人権）
5	プライバシーの権利と個人情報の保護、情報公開制度（行政情報へのアクセス）
6	自己決定権の尊重と医療・介護（インフォームドコンセント、身体拘束の禁止）
7	自由権（とくに人身の自由、少年の刑事手続き、資格制限と社会復帰）
8	法の下での平等と合理的差別（男女共同参画、セクハラと雇用機会均等法）
9	家族生活における平等（介護と扶養、介護保険制度導入の背景）
10	社会権の思想（平等権から社会権へ、生活保護法の基本原理と裁判例）
11	高齢社会における社会保障（社会保障の法体系、高齢者と住居、看護・福祉の労働）
12	その他の基本権——参政権、受益権（施設入所高齢者・障害者の参政権保障、国家賠償請求権）
13	国家の機構（三権の抑制と均衡、裁判所の仕組み）
14	財政、地方自治（財政の基本原則、自治体の行政権・立法権、行政争訟）
15	医療・福祉と日本国憲法（民主主義と少数者の人権、統治機構の役割）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。
野崎和義監修『社会福祉六法』2017年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

社会学 I

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会理論による現代社会の捉え方について、生活の理解について、人と社会の関係について、社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会システム(システム、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	社会変動について(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化など)
3	人口について(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化など)
4	地域について(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会など)
5	地域について(過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織など)
6	社会集団及び組織(社会集団の概念、第一次・第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト)
7	社会集団及び組織(アソシエーション、組織の概念、官僚制など)
8	家族について(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能など)
9	生活について(生活構造、ライフステージ、消費、生活様式、ライフスタイル、生活の質)
10	人と社会の関係について(社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマなど)
11	社会問題について(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱など)
12	具体的な社会問題について(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除など)
13	具体的な社会問題について(ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など)
14	生活支援と福祉について(生活の概念、福祉の考え方とその変遷など)
15	生活支援と福祉について(自助・相互・共助・公助など) ・まとめ

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読みまとめてから授業に臨み、授業後は自分でまとめたものと学んだ内容を比較して復習をすること。

【評価方法】

テスト80% 授業中の態度20%

【テキスト】

「社会学入門」 秋元律郎 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

教育学

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

自分が既にもっている教育に関する「常識」を踏まえつつ、それを超えて「教育」を「科学（学問）」的にとらえることができるようになる。「『教育』を根本から考える」作業を通して、自分なりの「教育観」をもち、今日の教育課題について主体的に考える態度をもつことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	教育とは何か
3	心身の発達
4	学校の歴史
5	子どもの歴史 ①古代・中世
6	子どもの歴史 ②教育対象としての子ども
7	子どもの歴史 ③ルソーによる「子どもの発見」
8	近代教育の思想と実践 ①ペスタロッチ
9	近代教育の思想と実践 ②ヘルバルト、フレーベル
10	近代教育の思想と実践 ③新教育運動
11	アメリカにおける進歩主義教育 ①前史：超越主義の教育思想（エマソン、ソロー）
12	アメリカにおける進歩主義教育 ②前史：超越主義の教育思想（ブロンソン・オルコット）
13	アメリカにおける進歩主義教育 ③超越主義から進歩主義へ
14	アメリカにおける進歩主義教育 ④デューイの教育哲学
15	現代の学校教育をめぐる論点

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教職論』（ミネルヴァ書房、2017年）

【参考文献】

授業内において適宜紹介する。

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより、自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～何を学ぶのか
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～家族というもの
5	認知発達～なぜ子どもは遊ぶのか
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達
8	仲間関係とこころの理解～こころの理論
9	道徳性と向社会的行動の発達
10	児童期の発達の特徴～学校という環境と発達の関係
11	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成
12	成人期から老年期の発達の特徴
13	発達の多様性～発達障害の理解
14	発達・家族支援とカウンセリング～社会の中の家族と個人の中の家族
15	発達心理学再考～これでいいのだ

【履修上の注意事項】

事前にテキストによる学習を行い、事後学習としてノートを含め知識を深めておくこと。

【評価方法】

期末試験結果に加え、受講態度を加味し最終的な評価とする。

【テキスト】

『新・プライマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜紹介する

哲学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

哲学という科目は、日本とは全く異なり、ドイツやフランスでは高校の必須科目として学び、大学入試の際にも4時間で大論文という形式の下、たとえば「対話は真理に至る道か」という出題であります。「言葉」を、自分の「言葉」を書き言葉として正確に豊富に形成することが求められます。日本の大学に入学した者に、今まで使ったことのない頭脳を使うという訓練を要求します。誰もが一人で生まれて一人で死んでゆくことを発見した者が、その個体存在のかけがえのなさを尊重し、なおかつ、その有限性を乗り越える広場に入ります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人類の獲得した思考様式の三つの類型と日本文化に不足する対象化的思考様式
2	日本近現代と世界史
3	普遍的なものの発見と、その論理的解明の要求。ソクラテス的問いの遂行と「知の次元」の登場。
4	「…とは何か」という問いと定義付けの実践練習
5	「私は…である」という表現と「人格の次元」「信の次元」の登場、「それ自体」という世界観
6	「本性上先なる世界」から「人間にとって先なる世界」を優位とする近代的世界観の登場
7	17世紀：自らを開く欧州と自らを閉ざす東アジア① ベーコン、アメリカ上陸、織田信長、鎖国
8	同上 ②風景画と自画像の出現、パスカルの「深淵」、セルバンテスの「憂鬱」、リアの「悲劇」
9	同上 ③近代プロテスタントの「孤独」と「世俗内禁欲」、近代資本主義の成立
10	作為と不作為
11	18世紀：近代西欧の思想空間、カント三批判の哲学1
12	同上 カント三批判の哲学2
13	ヘーゲルによる「精神の労働」、対象化される人間存在
14	現代：「においてある」思考の優位（「環境」「場」「状況」の発見）
15	作為と不作為の非対称性の克服へ、他者支援型社会の構築へ

【履修上の注意事項】

毎回、予習と復習のために「キーワード3つ」と「授業への感想（関心）、理解度、注文と希望」を文章形式で提出してもらいます。「書く力」を身に付けていきます。

【評価方法】

感想などの提出は20点、レポートは10点、定期試験は70点という評価方法です。

【テキスト】

R.v. ヴァイツェッカー著山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）
山本 務・熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社）

【参考文献】

講義中に折に触れて適宜、提示。

倫理学

担当教員 山本 務

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成29年度は履修者が10名未満の場合閉講

【授業のねらい】

倫理が各分野で要求される時代に日本もようやく入りました。学問としての倫理学は、近代的な人間観に立脚しており、その基本形をまずドイツのカントとヘーゲルにおいて確定します。次に、20世紀後半に倫理の中核へと登場した「責任」という原理をめぐって、「作為と不作為」を掘り下げて考察します。他者危害の作為は古来から今日まで「万人の義務」であるとされ、現代の我々の倫理観の中に入っておりますが、他方、他者支援の作為は「万人の義務」として感受されていません。このギャップを埋める道をもとに探求できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	I-1 近代的な世界観の確定「人間にとって先なる世界観」優位の倫理観
2	I-1-2 カント倫理学における「道徳性Moralitaet」、個人としての人格と良心
3	I-1-3 同上2
4	I-1-4 ヘーゲルにおける「人倫Sittlichkeit」：倫理の現実化としての国家、市民社会
5	I-1-5 同上2 倫理の現実化としての家族、法、制度、家族
6	I-1-6 近代日本の国家と倫理の一体化
7	I-1-7 現代日本の倫理的状況
8	II-1 作為と不作為という考え方：罪責の二類型の発見
9	II-2 ドイツ・戦後40周年ヴァイツゼッカー大統領演説の場合
10	II-3 不作為の定義付け：作為の変種から対概念の位置へ
11	III-4 不作為の概念分析（回数としての不作為、原因としての不作為）
12	III-5 不作為の特殊形態：「生起するままに放置すること」
13	IV-1 概念枠から現実が初めて見えるということ
14	IV-2 現代日本における不作為問題の事例研究：ハンセン病問題
15	IV-3 同上、薬害問題、いじめ、水俣病問題、アスベスト問題

【履修上の注意事項】

日本の現在進行中の出来事、たとえば、水俣病関西訴訟判決以降の様相、ハンセン病問題、薬害肝炎訴訟、中国残留日本人孤児問題、医療過誤など、活字メディアによく目を通して、それらを切抜きして、各自が独自の教材をつくるという意欲が生まれます。

【評価方法】

毎回の感想文提示=30点、レポート提出=20点、定期試験=50点。

【テキスト】

山本 務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社）
R. ヴァイツゼッカー著、山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）。

【参考文献】

講義中に適宜教示。

ボランティア論

担当教員 西島 衛治、川原 英照、宮田 喜代志

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高齢者や障害児者と共に生きる社会が、ノーマルとする理念を現実化するためには、地域の人々の参加や協力が必要である。このようなボランティア活動にシステムやルールがあれば、より高いサービスが提供できるであろう。そのほか、心理面のサポートのあり方等についても考え、実践のための基礎づくりを目指す。将来にNPO法人を設立し、福祉や介護事業などの社会貢献が実践できる基礎知識を身に付ける。

【授業の展開計画】

オムニバス方式で4人の講義を展開し、それぞれのボランティアの考え方を情報源として、学生にボランティアのあり方を追求してもらう。Ⅰ. [西島 衛治] 本科目全体のコーディネートをを行う。児童福祉とボランティア。Ⅱ. [川原 英照] 本古来の発想に基づくボランティア論を押さえ、その具体的活動を紹介しつつ、国際協力としてのボランティア活動の現実を伝える。Ⅲ. [宮田 喜代志] NPO法人が行う事業の整理を試み、その活動内容評価についての視点を明らかにする。講義全体で、学生同士のディスカッションも重視する。

週	授 業 の 内 容
1	社会経済環境の変化とボランティア活動との関連性を学習する(西島)
2	勤労者・企業等とボランティア活動の意義について学ぶ(西島)
3	勤労者(企業人)のボランティア活動の現状と問題点を把握する(西島)
4	企業・労働組合の社会貢献活動とボランティア支援の現状を把握する(西島)
5	ボランティア・NPOと企業・行政とのパートナーシップとボランティア社会の関係性(西島)
6	「最高のボランティアはお母さんだ」を考える(川原)
7	「愛ってなんだろう」を考える(川原)
8	「自分の存在価値って何?」を考える(川原)
9	「自分と他者(他者になることはできない)」との関わり合いを考える(川原)
10	「国際社会と日本のちがい」について議論する(川原)
11	NPO法人の設立と活動を多くの資料から学ぶ(宮田)
12	NPO法人の実践事例分析を通してNPO法人の将来性を理解する(宮田)
13	地域の福祉ネットワークの中におけるNPO法人の役割りを多くの実践を通して学ぶ(宮田)
14	大きな福祉論とコミュニケア活動の重要性を認識する(宮田)
15	総括としてこれまで学んだ社会貢献の在り方を議論し理解を深める(宮田)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分) 【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図や表に整理する。(120分) 【その他のアドバイス】講義の中でノートを作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

1. 定期試験や中間理解度確認試験による評価(60%)
2. 予習・復習の自主的学習態度の確認(20%)
3. レポートによる評価(10%)
4. 講義における質疑応答状況(10%)

【テキスト】

西島衛治編著「ボランティア・NPO論」(仮)、筒井書房、2015年4月発刊予定
その他配布資料など

【参考文献】

参考書『季刊「みろくの風」』ARTIC発行、西島衛治編著「実践的ボランティア論」筒井書房、2011

カウンセリング論

担当教員 忽那 かずみ

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

他者援助において基本となる代表的なカウンセリング理論を理解する。併せて、それぞれのカウンセリングの実践における本質的な考え方や方法上の相違点を理解する。また、それぞれのカウンセリング理論および密接に関係する心理検査の学修やワークを通じて自己理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションと序論
2	カウンセリングの基礎
3	カウンセリングの実際
4	精神分析療法の理論と実際
5	来談者中心療法の理論と実際
6	行動療法の理論と実際
7	論理療法の理論と実際
8	認知療法の理論と実際
9	認知行動療法の理論と実際
10	ゲシュタルト療法の理論と実際
11	交流分析療法の理論と実際
12	日本の心理療法の理論と実際
13	箱庭療法とコラージュ療法（切り抜いてもよい雑誌2～3冊、はさみ、のりを持参すること）
14	カウンセリングと心理検査
15	カウンセリングと精神疾患

【履修上の注意事項】

テキストで事前学習してください。講義時間内にカウンセリングと関連する心理検査の実施を含む場合があります。毎回の講義後に振り返りを行い、理解を深めてください。講義では実際のケースを採り上げたり、具体例を話すことがあります、また、演習（グループワーク等）の中で個人的な話が出されることもありますので、個人情報扱いには細心の注意を払い、絶対に口外してはいけません。演習（グループワーク等）では、他の人の意見を否定や批判をしない、違う意見も尊重する、発言は最後まで聴く、全員が発言することをルールとします。

【評価方法】

定期試験50%、演習（ディスカッション、グループワーク、授業態度等を含む）20%、振り返りシート（レポートを含む）30%

【テキスト】

山蔦圭介著、宮城まり子監修『基礎から学ぶ カウンセリングの理論』、産業能率大学出版部

【参考文献】

必要の都度、指示します。

体育

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

心身の健全な発達の促進、運動やスポーツに内在する楽しみや技能、健康、体力の保持・向上・増進のための運動処方などを総合的・実践的に自ら把握できるようになる。

【授業の展開計画】

1. 運動行動と身体とのかかわりを説明できる
2. 運動しないと身体へどのような影響が考えられるか説明できる
3. 身体組成から見た運動行動の大切さについて説明できる
4. 無酸素運動について説明できる
5. 有酸素運動について説明できる
6. 筋肉の種類から見た運動の適正について説明できる
7. 運動の強度と運動時間について説明できる
8. 運動とエネルギー供給の関係について説明できる
9. 運動の種類と循環器の関係について説明できる
10. メタボリック理解とその対策について説明できる
11. 運動と栄養・休養との関係について説明できる
12. 運動によって引き起こされる運動障害について説明できる
13. トレーニングの種類とその効果について説明できる
14. 運動を行うに時に注意すべき事項について説明できる
15. 健康維持のための運動について説明できる

【履修上の注意事項】

授業前に資料の該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、測定結果を500字程度の文章で所定の提出用紙にまとめておくこと。

体育資料を毎時間持参すること。

演習授業は体育着で行うこと。

【評価方法】

演習レポート30%、自主的学習態度10% 課題レポート20% 体育ノート作成40%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

運動生理学 講談社 岸恭一

比較文化論

担当教員 未定、金 蘭九、A. J. サザランド、安藤 学、高 継芬

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、欧米諸国やアジアの文化・社会・価値観・人々の考え方を、具体的な事例に基づいて日本と比較させ、異文化理解を図ると共に、人間と文化の総合的な関係を理解できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。日独、戦後復興の後に（山本）
2	戦後40周年の日独、戦後59周年の日独（山本）
3	中国あるいは東南アジアについて（安藤・高）
4	メディアを通じた異文化理解（サザランド）
5	映画と社会、文化（サザランド）
6	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間1（サザランド）
7	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間2（サザランド）
8	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間3（サザランド）
9	比較言語学が見る日本語と英語・ドイツ語：テーマとレマ（山本）
10	テーマとレマによる「冠詞の選択」（山本）
11	主語・述語型言語と主題・陳述型言語（山本）
12	日韓文化の遠近（金）
13	医療と福祉・日本と韓国（金）
14	障害者福祉の基本・国際比較
15	まとめと試験（山本）

【履修上の注意事項】

予習と復習のために、毎回レポートの提出です。

【評価方法】

レポート20点、また、定期試験80点で評価する。

【テキスト】

（山本 務）『過去の克服・二つの戦後』R. v. ヴァイツゼッカー著、山本 務訳著、日本放送出版協会。
『日本の思想』丸山眞男、岩波書店（岩波文庫）

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

英語 I

担当教員 江口 元子

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

読む・書く・聞く・話す、の4技能が有機的に結び付いた相関関係にあるものとして総合的英語基礎力を身につける。総合的に学ぶ導入口として、音読を通して英語をことばの原点にもどし、正しい発音を正しく聞き、正しく出すことを学習の一步とし、音読により英語の文脈を把握、同時に内容を把握する習慣をつけ、文法も書き言葉の表現の基本構造として内容との関連に結びつけ学習をする。

【授業の展開計画】

書き言葉としての英語を音読で把握する感覚をつけることによって、その延長線上に思考表現としての話し言葉との違いや関連性が意識されることを目標とし、会話表現力を修得するよう演習に組み込む。また、このような学習過程において、英語コミュニケーションに必要な語彙力(2000語～3000語)を身につけることを目指す。

週	授 業 の 内 容
1	“The Atkins Diet” / Language Focus: 文とは？
2	“Can You Live Without a Cell Phone?” / 主語・動詞の一致
3	“REM vs. NREM Sleep” / 不定冠詞: a とan
4	“Typhoon in Japan, Hurricane in America” / 定冠詞theの使い方
5	“Pet Boom in Japan: A Dog Treated Like a Human Being” / 名詞: 総称的意味の表現
6	“A Friend in Need Is a Friend Indeed” / to不定詞
7	“The Growing Population of Older People” / 分詞: 現在分詞と過去分詞
8	“Job-Hunting” / 動名詞
9	“Drug Use Increases Among the Young” / 現在完了形
10	“Sushi Bars Popular in America Now” / 関係代名詞
11	“Blood Type” / 関係副詞
12	“Japanimation Sweeps the World” / 原形不定詞
13	“Internet Shopping is Risky?” / 分詞構文
14	“How Often Do You Say ‘I Love You’ ?” / 条件文
15	“Independent Films More Active Than Hollywood” / 仮定法 ふりかえり、まとめ

【履修上の注意事項】

各自英和辞書持参。テキストに基づき、各自英単語帳を作成すること。

【評価方法】

期末テスト(70%)、英文和訳宿題提出・クラス音読(ペアー会話)演習(30%)

【テキスト】

Read Aloud. Shigeyuki Sakakibara/Masuko Sakakibara. Macmillan Languagehouse Ltd., Tokyo, 2007.

【参考文献】

ハートで感じる英文法(大西泰斗・ポール・マクベイ著) NHK出版
 新・英語をもう一度最初から(Brush Up Your English One More Time)(江藤正明著) 株)ナガセ

英語Ⅱ（医療英語）

担当教員 江口 元子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯学英语専門語彙・用語を習得するよう指導し、基本医療・看護スタッフが必要とする英語による対応の仕方を、場・状況別の会話演習によりコミュニケーション様式を習得する。口腔医療・看護関係の英文資料のリーディング・会話文・医療英単語習得等、教科書の各章に沿って授業を進める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	"Making an Appointment by Telephone"/資料：一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（1）
2	"Request for Medicine"/資料：一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（2）
3	"Emergency Appointment"/資料：一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（3）
4	"National Health Insurance"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（1-3）
5	"Asking to Describe symptom"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（4）
6	"Asking the Medical History"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語(5)/問診票
7	"Periodontal Disease"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語(6)
8	"Pregnancy"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語(7)/妊娠性歯肉炎
9	"Why Do I Need a Cleaning?"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（8）
10	"Informed Consent"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（9）
11	"Sealants"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（10）/シーラントとは？
12	"Fluoride Treatment"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語テスト(11)/フッ素化
13	"Tooth Brushing Instruction for a Child"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（12）
14	"Tooth Brushing Instruction for an Adult"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（13）
15	"Postoperative Instruction"/一般医療・看護及び専門分野別語彙・用語（14-15）

【履修上の注意事項】

授業で扱う身体の機能の仕組み、臓器、健康管理に関する語彙、及び、専門分野別語彙・用語を予習・復習し、テストに備えること。教科書各章のリーディング・練習問題の予習をする。ノート、英和辞典必携、又、歯学・看護専門語彙・用語資料を各自準備することも勧める、

【評価方法】

期末テスト60%、リーディング和訳レポート20%、語彙・用語テスト20%

【テキスト】

「歯科英語」 by Thomas R. Ward, 他. 医歯薬出版（株）

【参考文献】

授業中に紹介する。

英会話 I

担当教員 江口 元子

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日常生活・社会生活に必要な内容の基礎英語コミュニケーション実践力をつける。発音・リスニング演習、会話ペア練習により、ビデオを通し異文化体験の実際を学び、その場に相応しいオーラル・コミュニケーションの表現実践力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Getting Information (At the Airport); Checking in at a hotel (Introduction to the chapter)
2	Checking in at a hotel; Asking for directions (Introduction to the chapter)
3	Asking for directions (In downtown San Francisco); Renting a car (Intro to the chapter)
4	Renting a car (At a rental car agent); Ordering a meal (Intro to the chapter)
5	Ordering a meal (At a restaurant); Shopping for clothes (Intro to the chapter)
6	Shopping for clothes (In a woman's boutique); Asking for a favor (Intro to the chapter)
7	Asking for a favor (At a scenic spot); Meeting a friend (Intro to the chapter)
8	Meeting a friend (On the street); Checking out of a hotel (Intro to the chapter)
9	Checking out of a hotel (At the hotel front desk); Expressing preference (Intro to the chapter)
10	Expressing preference (At the airline check-in counter); Home stay (Intro to the chapter)
11	Home stay (Meeting with a host family); Offering to help (Introduction to the chapter)
12	Offering to help (At a barbecue party); Self-introduction (Introduction to the chapter)
13	Self-introduction (At the International Lounge); Getting advice (Intro to the chapter)
14	Getting advice (In a classroom at the university); Checking out a book (At the library)
15	Review "Communication Focus" of the chapters included in the classroom activity.

【履修上の注意事項】

テキストの予習・復習；クラスにおけるペア会話練習参加；特別の理由以外の欠席はしないことを促す。テキスト、ノート、英和辞典必携。

【評価方法】

期末テスト60%、演習（発音・リスニング・ペア会話練習）40%

【テキスト】

Viva! San Francisco. Hiroto Ohyagi/Timothy Kiggell. Tokyo: Macmillan Languagehouse Ltd.,

【参考文献】

ハートで感じる英文法（大西泰斗・ポール・マクベイ著）NHK出版
 新・英語をもう一度最初から（Brush Up Your English One More Time）（江藤正明著）株）ナガセ

英会話Ⅱ

担当教員 A. J サザラント

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Class will be given a choice between (A) studying by group role play based on welfare drama or (B) to create a community project. This is decided on the first class meeting. The class will then study plan A or B below

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Class Introduction of role play or community project study programme
2	A) Print 1- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 1
3	A) Print 1- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 2
4	A) Print 1- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 3
5	A) Print 1- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 4
6	A) Print 1- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 5
7	A) Print 1 review, preparation for speaking test / B) Review of project work
8	A) Mid-term speaking test 1 / B) Mid-term assessment of project work
9	A) Print 2- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 6
10	A) Print 2- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 7
11	A) Print 2- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 8
12	A) Print 2- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 9
13	A) Print 2- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 6
14	A) Print 2 review, preparation for speaking test / B) Review of project work
15	A) Final speaking test 2 / B) Second-stage assessment of project work

【履修上の注意事項】

Lectures based on prints given to students in class, and audio-visual materials for group study.

【評価方法】

Study plan A) Class participation 10%, personal dictionary 30%, and Speaking tests 60%
 Study plan B) Class participation 30%, project work 70%

【テキスト】

A) & B) any good electronic pocket English-Japanese Dictionary
 A) Consult a Collins English dictionary in the library to make your personal dictionary.

【参考文献】

中国語会話 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、基礎的な日常会話ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	中国について学ぼう 中国語の発音 声調・単母音の学習
2	複合母音・子音の学習
3	人称代名詞、否定、疑問など 浦東空港にて
4	名詞、副詞の用法 タクシーに乗って
5	所在を表す動詞「在」 ホテルでお茶を
6	「的」の省力 場所を表わす代名詞、存在を表わす「有」について学ぶ 私の家族
7	“喜歡”+同市の使い方について学ぶ 趣味は映画です
8	願望を表す助動詞“想” 大学の図書館へ
9	数詞、量詞について学ぶ 放課後
10	前置詞、完了の「了」について学ぶ 上海の交通
11	連動文 地下鉄付近にて
12	助動詞、経験を表わす表現について学ぶ
13	主文述語文、比較の表現 変化を表す表現など ちょっとおなかが空いた
14	結果補語、方向補語について学ぶ 突然の雨
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
 受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

小テスト 20%
 レポート 20%
 試験 60%

【テキスト】

教科書： 『LOVE 上海一初級中国語一』朝日出版社
 辞典： 相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

中国語会話Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、受講者が前期の中国語会話Ⅰで修得基礎知識をもとに、より豊かな中国語の表現力および会話力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	前期の学習内容を復習
2	自分について中国語で表現してみよう
3	家族について中国語で表現してみよう
4	日常生活について中国語で表現してみよう① 上海料理を食べる
5	日常生活について中国語で表現してみよう② おなかがいっぱいです
6	にちじょう生活について中国語で表現してみよう③ 外たんの夜景
7	日常生活について中国語で表現してみよう④ 上海語はおもしろい
8	日常生活について中国語で表現してみよう⑤ ホテルの部屋から
9	これまでの学習内容をふりかえって
10	日常生活について中国語で表現してみよう⑥ どうしたの
11	日常生活について中国語で表現してみよう⑦ 上海は魅力的
12	日常生活について中国語で表現してみよう⑧ またあいましょう
13	大学生のアルバイトを表現しよう
14	留学について中国語を表現してみよう
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
 受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

レポート 20%
 小テスト 20%
 試験 60%

【テキスト】

教科書：『LOVE 上海 初級中国語』 朝日出版社最新版
 辞典：相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

韓国語会話 I

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業では、韓国の文化や伝統の習慣などを理解しながら、基礎的な韓国語会話を習得、簡単な日常の会話ができる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 韓国語の特性及び母音と子音について
3. 韓国語の文章の構造について説明・ハングル文字の書き順の練習
4. 基本的な挨拶に関連する会話について
5. 自己紹介などの簡単な会話
6. 名詞の特別な用法を含めた簡単な会話
7. 韓国文化についてのビデオ鑑賞と説明
8. 簡単な日常生活の会話と文法的な説明・練習 (1)
9. 簡単な日常生活の会話と文法的な説明・練習 (2)
10. 簡単な日常生活の会話と文法的な説明・練習 (3)
11. 簡単な日常生活の会話と文法的な説明・練習 (4)
12. 韓国の映画鑑賞
13. 日常生活場面での簡単な会話についての説明・練習 (1)
14. 日常生活場面での簡単な会話についての説明・練習 (2)
15. 学習した会話の総括的な練習・復習

【履修上の注意事項】

学習した内容の会話を日常の場面で使う。

【評価方法】

1. 授業への参加意欲と発表 50点
2. 授業中のミニテスト 50点 計100点

【テキスト】

韓国語を始めよう (初級)、李 昌圭、朝日出版社

【参考文献】

韓国語会話Ⅱ

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

韓国語会話Ⅰに続けて、韓国の文化・歴史への理解や関心を深めながら、簡単な会話を習得し、日常生活の場面で応用できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「韓流ブーム」に関する日本の若者の見解は？（ディスカッション）
3. 韓国語会話Ⅰの復習－挨拶・自己紹介など
4. 具体的な場面を想定した日常会話（1）
5. 具体的な場面を想定した日常会話（2）
6. 具体的な場面を想定した日常会話（3）
7. 日本と韓国大学との相違点と大学生交流の重要性及びその役割について（特別講演；招聘講師）
8. 日常場面で応用できる会話（1）
9. 日常場面で応用できる会話（2）
10. 日常場面で応用できる会話（3）
11. 韓国の映画鑑賞
12. 韓国語日記・作文の練習（1）
13. 韓国語日記・作文の練習（2）
14. 韓国の文化・医療・福祉の方向性について紹介
15. 韓国への留学・就職に関する情報や諸大学の紹介・韓国留学・就職した先輩からのメッセージ

【履修上の注意事項】

韓国語会話Ⅰを履修していない学生も履修可能。
授業後には、繰り返し練習して日常生活の場面で使う。

【評価方法】

授業参加への意欲・態度及び発表 50点
授業中のミニテスト 50点 計100点

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

韓国語をはじめよう（初級） 李 昌圭、朝日出版社

ドイツ語 I

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「ドイツと言えば何を思い浮かべますか」というアンケート調査に関して、日本の若者によるもっとも多い回答は、「ベルリンの壁崩壊」ですが、しかし学校教育で、その授業を受けたことはないという、期待感の不満足という実情も判明。そこで「壁崩壊後」の現代を生きる君たちにふさわしい、ドイツ語学習を通じたドイツ・ヨーロッパの現在も教授します。もちろん、言葉というものの客観的構造と併せて、躍動感のあるドイツ語の世界に触れることができます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	語形変化と意味論①：動詞の現在人称変化
2	語形変化と意味論②：名詞と人称代名詞、格と格変化
3	統語論①枠構造：語順は何の順番か？ 定動詞の固定位置
4	語形変化と意味論③：前置詞の格支配
5	語形変化と意味論④：助動詞
6	統語論②テーマとレーマ
7	語形変化と意味論⑤形容詞の格変化、名詞・代名詞・形容詞の格変化のまとめ
8	語形変化と意味論⑥動詞の三基本形
9	会話とテキスト理解①
10	語形変化と意味論⑦：関係代名詞の格変化、指示代名詞
11	統語論③：副文構造の枠構造
12	統語論④：完了時制の枠構造
13	統語論⑤：受動態の枠構造
14	会話とテキスト理解②
15	会話とテキスト理解③

【履修上の注意事項】

独和辞典の購入と教室必携は、授業開始して3回目くらいの時期までに。ドイツ語学習は、辞書のひき方それ自体も学習対象であり、予習と復習のために必須です。

【評価方法】

小試験＝20点、レポート＝20点、定期試験＝80点。i

【テキスト】

関ロー郎著『アレス・クラール』郁文堂出版。

【参考文献】

『過去の克服・二つの戦後』ヴァイツゼッカー著、山本 務訳著、日本放送出版協会刊。

ドイツ語Ⅱ

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1989年11月ベルリンの壁崩壊、翌年10月東西ドイツの統一とともに、ヨーロッパは新たな統合の枠組みを目指してきました。これは、明治時代以後初めて、私たち日本にとっても「ヨーロッパの出現」という現象となって注目の対象となりました。国境を軽く超える、人的・物的交流は、観光の高まりとともに、この20年間で一変してきました。そのヨーロッパのひとつの中心、ドイツの現在を、ドイツ語学習を通じて知ってゆきます。併せて、日本語それ自体をも対象としながら、言葉によってものを考えるということも学習できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	語形変化と意味論の演習①：名詞の格変化、代名詞の格変化
2	語形変化と意味論の演習②：形容詞の格変化
3	統語論の演習①：助動詞構文の枠構造
4	統語論の演習②：完了時制の枠構造
5	統語論の演習③：副文の枠構造（従属の接続詞）
6	統語論の演習④：副文の枠構造（関係代名詞）
7	統語論の演習⑤：受動態の枠構造
8	定冠詞と不定冠詞の使い分けという課題①基地と未知
9	定冠詞と不定冠詞の使い分けという課題②：日本語、英語、ドイツ語
10	テキスト言語学の基礎概念：テーマとレーマ①
11	テキスト言語学の基礎概念：テーマとレーマ②
12	単語、文からテキストへ：首尾一貫性と結束性
13	最も能動的で、しかも安定性を持つテキストとは？：線条的なテーマ進行
14	ドイツ語紙誌を読む①：新チューリヒ新聞から
15	ドイツ語紙誌を読む②：シュピーゲル誌から

【履修上の注意事項】

予習と復習のために辞書を引きまくるという態勢を築いて欲しい。また、テレビ衛星放送でドイツのニュース番組「ZDF」を見るという習慣の形成に心がけてください。

【評価方法】

レポート＝40点、定期試験＝60点。

【テキスト】

関ロー郎著『アレス・クラール』郁文堂書店刊。

【参考文献】

『過去の克服・二つの戦後』ヴァイツゼッカー著、山本 務訳著、NHKブックス705

障害者言語 I (点字)

担当教員 吉住 寛之

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 必ず、指定のテキストと点字器、ワークショップで使用するアイマスクを準備すること。

【授業のねらい】

●一般目標

言語・コミュニケーション文化の一つである点字の技法の学習を通じて、視覚に障害がある人への理解を深め、その支援の在り方を共に考える。情報・コミュニケーション支援や移動・コミュニケーション支援、福祉制度の学習を通じて、視覚に障害のある人への支援のための実践的な知識と・コミュニケーション能力を養う。点字については、その簡単な読み書きが出来るように基礎的な実技の習得を目標とする。

【授業の展開計画】

●行動目標：

視覚障害の特性に応じた基本的な情報コミュニケーション支援と移動コミュニケーション支援ができる。
点字については、点字で手紙のやり取りができる。

- 01 ガイダンス：①オリエンテーション ②視覚障害のある人の状況 ③まちや家の中にある点字について
- 02 情報コミュニケーション支援
①情報保障と合理的配慮 ②情報アクセシビリティと支援技術 ③分かり易い視覚情報の提供の仕方
- 03 移動コミュニケーション支援
①移動保障と合理的配慮 ②視覚に障害のある人の移動の実際
③視覚に障害のある人への接し方と移動支援技法
- 04 点字の基礎1： 点字の歴史と概要 点字の清音
- 05 点字の基礎2： 点字の器具と書き方 点字の濁音・拗音
- 06 点字の基礎3： 点字の読み方 点字の半濁音・拗濁音・特殊音
- 07 語の書き表し方： ①仮名遣い
- 08 語の書き表し方： ②数字
- 09 語の書き表し方： ③アルファベット
- 10 分かち書き： ①文節分かち書き
- 11 分かち書き： ②複合語
- 12 分かち書き： ③固有名詞
- 13 記号類と点字の手紙の書き方
- 14 福祉制度
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

点字の実技についてはテキスト・配布資料等を参考にし、自宅においても予習、復習すること。視覚に障害がある人の現状を具体的に把握するために、毎回関連の最新トピックスを情報提供し、それをテーマにグループディスカッションなども行う。思考的理解のみならず、身体的理解を深めるためにアイマスクなどを使った体験型ワークショップも実施する。理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。

【評価方法】

授業での取り組みや態度：15% 宿題提出：15% 課題レポート：30% 試験：40%

【テキスト】

『初めての点訳』第2版 NPO法人全国視覚障害者情報提供施設協会

【参考文献】

『臨床に必要な障害者福祉—障害者福祉論』（福祉臨床シリーズ9）編集委員会編著 指田忠司共著 弘文堂
『世界の盲偉人』指田忠司著 桜雲会、『視覚障害教育入門』青柳まゆみ 鳥山由子著 ジアース教育新社

障害者言語Ⅱ（手話）

担当教員 福田 九

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

聴覚障害についての理論と、聴覚障害者が医療と社会の現場で置かれている現状を学び、医療従事者としての責務を学ぶ。又、ろうあ者・ろう者の母語である「手話」はどのような言語であるのかを理論と実技の両面から学び、コミュニケーションについて深く考え、実践できるヒューマン労働者になり、基本会話の手話を習得することによって、現場でろうあ者・ろう者と直接会話を交わすことで医療の質を上げる。

【授業の展開計画】

社会の中でマイノリティとして位置付けられている聴覚障害者と、圧倒的に多数派である聴者が共に生きる社会とはどのような社会なのかを考え、又、共に生きる社会を作る担い手になるための知識を「理論」として学習します。

手話については、音声言語である日本語との違いを理論と「実技」の両面から学習し、ろうあ者・ろう者とのコミュニケーションの第一歩の場面で、手話を使えるようになることを目指します。

週	授 業 の 内 容	
1	Deaf World と Hearing World	
2	人間とコミュニケーション	手話実技1 手話と日本語の言語としての特徴
3	人間と言語	手話実技2 手話の基本文法
4	音声言語と視覚言語	手話実技3 基本会話 挨拶
5	コミュニケーションの機能と役割	手話実技4 基本会話 挨拶
6	コミュニケーションの手段	手話実技5 基本会話 固有名詞の表現方法
7	聞こえのしくみ①	手話実技6 基本会話 名前の表現
8	聞こえのしくみ②	手話実技7 基本会話 数と単位
9	障害の発生原因	手話実技8 基本会話 生年月日の表現
10	聴覚障害の発生原因	手話実技9 基本会話 家族の紹介
11	聴覚障害を理解する①	手話実技10 基本会話 職業の表現
12	聴覚障害を理解する②	手話実技11 基本会話 地名の表現
13	聴覚障害者のHandicap	手話実技12 基本会話 住所の表現
14	聴覚障害者への支援と手話通訳	手話実技13 基本会話 会話の実際
15	まとめ 「ドンが聞こえなかった人々—東メイ子の生涯—」	

【履修上の注意事項】

毎回「理論」45分、「実技」45分の構成で行います。【理論】1回～6回→項目について自分の頭で考察して授業に臨むこと。7回～14回→事前にテキストを読んで臨むこと。講義を聞きながら、メモの取り方やノートの取り方を工夫し、授業後、ノートを整理し質を上げたノート作成に取り組むこと【実技】毎回、習った手話単語や文型を復習し、練習して覚えること。また、習得した手話単語や文型はできるだけ使用して使えるようにし、自己紹介（5項目）について相互会話ができるように努力すること。

【評価方法】

筆記試験 100%

【テキスト】

『聴覚・言語障害者とコミュニケーション』 一番ヶ瀬康子 監修、一橋出版

【参考文献】

特になし

中国事情 I

担当教員 高 継芬、新任教員

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

準備事項

単位数 2

備考

【授業のねらい】

中国語の文章を読むことによって中国の古代の文化や現代の中国事情について理解ができる。
古代の文化は三字経と千字文を中心に学ぶことができる。
現代の中国事情について中国の人口、地理、民族、飲食習慣などについて理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション(孫・高)
2	中国の三字経①(孫)
3	中国の三字経②(孫)
4	中国の三字経③(孫)
5	中国の三字経④(孫)
6	中国の千字文①(孫)
7	中国の千字文②(孫)
8	中間まとめ復習(孫)
9	中国概況(高)
10	中国の飲食習慣(高)
11	中国の節日(高)
12	中国の交際礼儀(高)
13	中国の現代の大学生(高)
14	現代中国の抱える問題(高)
15	総括まとめ(孫・高)

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する

中国事情Ⅱ

担当教員 高 継芬、新任教員

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

主として中国の現代事情を理解しつつ、その事象について分析考察します。伝統文化と現代文化の関連性や、中国特有の事情と日本お違いに注目することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション（孫・高）
2	中国の消費観念（高）
3	中国の就職事情（高）
4	中国の教育事情（高）
5	中国の婚姻（高）
6	中国の健康観念（高）
7	中国の定年後の娯楽（高）
8	今までの振り返り（高）
9	中国の医療事情（孫）
10	中国の観光事情（孫）
11	中国の伝統休日（孫）
12	中国の世界遺産（高）
13	中国の伝統習慣（孫）
14	中国の伝統礼節（孫）
15	総括まとめ（孫・高）

【履修上の注意事項】

事前に授業内容を予習してくることと事後復習してくることができれば授業がスムーズに進みます。

【評価方法】

レポート40%
小テスト20%
テスト 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介する

アジア文化

担当教員 高 継芬、安藤 学、金 蘭九、李 玄玉、新任教員

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジアの国々と地域の文化形成過程(文化史)を学修し、それぞれの文化における共通性と異質性を認識することによって異文化への理解を深めることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化とは(安藤)
2	タイの文化(その歴史と現在)(安藤)
3	日韓文化の遠近(金)
4	日中旅遊観光の文化について(孫)
5	台湾の文化について(高)
6	日中文化における共通性と異質性 歴史の視点から(孫)
7	韓国から日本へ伝えられた様々な文化について(李)
8	「飛鳥」という地名の意味、由来(李)
9	日本語の「鳥・とり」と韓国語の「Dori」について(李)
10	日中文化における共通性と異質性 衣食住について(高)
11	日中文化における共通性と異質性 漢字の比較(高)
12	日中文化における共通性と異質性 論語について(高)
13	国際理解異文化理解について(高)
14	日本の文化を知る(高)
15	文化についてのディスカッション(担当者全員)

【履修上の注意事項】

アジア文化の関連する本を事前に読んでいただくと毎回授業内容を復習していただくとスムーズに受講できます。

【評価方法】

レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%

【テキスト】

講義時にプリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する

基礎生物科学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

口腔保健学科の開講科目の中には、医療技術者の一員として働く上で必要な共通の教養と専門基礎知識を身に付けるために、生化学、解剖生理学、薬理学、栄養学などが設けられている。これらの生命科学と関わりのある科目の内容を理解するためには、生物有機化学や分子生物学的な基礎知識が必須である。この授業では、生物(特にヒト)の体内での合成や分解(代謝)によって創り出される物質や栄養素、遺伝子(核酸)など、いろいろな有機化合物の構造と機能についての基礎知識を習得し、専門・専門基礎科目の内容のより深い理解に役立つ。

【授業の展開計画】

授業の前半(第1週から8週まで)は、有機化合物を構成する元素やその結合様式、分子の形と混成軌道、官能基の構造と性質など、生体物質を理解する上で基礎となる内容を中心に進める。特に、生体内での代謝で創り出される有機化合物(生化学や栄養学などで必ず出てくるもの)についてわかりやすく解説し、構造式を書ける程度まで学習する。後半は、生物の単位である細胞を構成する主な有機化合物について考え、それらの構造や性質と役割、さらには遺伝子の構造や発現機構についても言及する。

週	授 業 の 内 容
1	生物を構成する元素の特徴 - CHONSPから成る分子の世界
2	有機化合物の書き方とアルカン - 分子の形を見る (sp ³ 混成軌道)
3	アルケンとアルキン - 分子の形を見る (sp ² 混成軌道とsp混成軌道)
4	ベンゼンと芳香族 - 亀の甲の形を考える
5	有機化合物の官能基と分類 - 分子の性質を決める原子団
6	有機化合物の官能基の性質と反応 - 酸・塩基、酸化・還元反応や脱水反応の産物
7	有機化合物の構造異性と光学異性 - この双子兄弟は一卵性?二卵性?
8	到達度チェックの中間試験と授業の中間まとめ
9	細胞の有機化学 - 60兆個の細胞の基本形と有機化学的見かた
10	糖質と脂質の化学 - エネルギーの作り方と貯め方
11	アミノ酸の化学 - タンパク質を作る20種類の材料と性質
12	タンパク質の化学 - タンパク質の構造と性質
13	核酸の化学 - 核酸を作る5種類の材料と組み合わせ
14	遺伝子と核酸 - DNA上の遺伝子の構造と働き
15	遺伝子発現 - mRNAの発現と調節

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で有機化学を履修しなかった、苦手としていた、好きで履修したがもう一度学び直したい、生体を構成する有機化合物の構造と機能などにも少し興味がある学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容をちょっと確認し、また、受講したその日の内に短時間でも復習し、学んだことを記憶に残す努力をする。「わかること」「知ること」を「楽しむ」姿勢で受講するとよい。

【評価方法】

本試験60点、中間試験20点、学習態度(確認小テストを含む)20点

【テキスト】

1. 食を中心とした化学(北原重登ら、東京教学社)
2. プリント

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - (齋藤勝裕ら、裳華房)
 これでわかる基礎有機化学(畔田博文ら、三共出版) イラスト生化学入門(相原英孝ら、東京教学社)

環境科学

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境問題というものをどのようにとらえるか、またその問題をどのように解決していくかを、自然と人間との関係から考え、その方法を修得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境科学とは
2	環境とは何か
3	自然環境と人間
4	都市・工業国と農村・農業国
5	人間の活動と地球のバランス
6	地球・生物圏・生態系
7	食糧か環境保全か
8	農耕地生態系
9	農業の工業化・機械化
10	持続可能な社会を構築する条件
11	経済効率と入会地の悲劇
12	入会地としての税金
13	汚染者負担の原則
14	今後の環境問題
15	環境問題の解決策

【履修上の注意事項】

授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート提出（80%）授業への取り組む態度（20%）

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する

公衆衛生学

担当教員 徳永 淳也

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境や経済的要因、社会階層等が個人の健康影響要因として再考されており、医療が対象としてきた患者としてではなく、生活者である人の健康問題を社会という文脈で考える視点と態度を養うことが肝要である。本科目では、社会環境の中で、個人としてだけでなく集団として人の健康を捉えることの意義と方法を、具体的な公衆衛生活動の各展開場面において紹介し考察する。多様な健康観を社会的視点から捉え思考する態度の重要性を認識し、人の健康への公衆衛生学的接近に関する手法と考え方を理解できることを目指す。

【授業の展開計画】

1. 公衆衛生学総論：公衆衛生学的接近とは何か
2. 環境と人間：環境保健概論
3. 環境保健を捉える諸相とは何か
4. 環境保健の評価と管理の理解
5. 保健統計概論：測定指標と現状の理解
6. 疫学概論：疫学の歴史的理解と研究デザインを理解
7. 感染症：疾病予防と健康管理
8. 地域保健と保健行政の概観
9. 保健医療の制度と法規：医療従事者における社会的、制度的環境の理解
10. 母子保健に関する取り組みの歴史的変遷および現状と課題の理解
11. 学校保健：子どもの健康状況を把握し学校保健の構成領域とその役割の理解
12. 産業保健：労働者の多様かつ特異的な健康問題の理解
13. 老人保健・福祉：高齢化の現状を理解し施策内容を関連づけて説明できる
14. 精神保健：精神保健における歴史的取り組みを理解し精神保健福祉活動を理解する
15. 国際保健：健康問題のグローバル化とその組織的対応策を理解する

【履修上の注意事項】

各講義では確認レポートを毎時間課すので欠席しないように努めること。講義で取り扱う事象や健康問題は複雑であり、暗記だけでは公衆衛生学の面白みを経験できない。健康問題に対する人や社会の考え方、歴史的変遷における論点を整理・理解することが大切である。日頃から健康問題とその解決法について社会という枠組みから接近する習慣を身につけること。

【評価方法】

各講義で行う確認レポートにより100%評価する。

【テキスト】

シンプル衛生公衆衛生学2017 鈴木庄亮監修、小山洋、辻一郎編集、南江堂

【参考文献】

最新歯科衛生士教本 保健生態学 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
新歯科衛生士教本 衛生学・公衆衛生学 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

環境衛生学

担当教員 星野 輝彦

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境因子と人（および生物）の相互関係を理解し、生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準
3	環境化学：生態系と物質動態
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨
5	化学的因子と健康：有害化学物質（重金属、農薬、工業薬品）の影響
6	化学的因子と健康：外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の影響
7	生物的因子と健康：病原微生物の影響
8	物理的因子と健康：放射線の影響
9	物理的因子と健康：温熱、圧力、騒音などの影響
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒
13	生活環境と健康：室内の汚染物質
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント

【履修上の注意事項】

講義予定の課題を調べること。受講後、復習しておくこと。
出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の感想を書くこと。

【評価方法】

試験90%、レポート10%

【テキスト】

各講義の際に資料を配布する。

【参考文献】

「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄（南江堂）
「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版）

生命倫理

担当教員 柴田 恵子、松本 鈴子、川本 起久子、二宮 球美、小林 幸人、村田 宮彦

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生命に関する倫理的諸問題について、人はどのように対処すべきだと考えられるかについて理解する。先端医療を始めとするバイオテクノロジーの発展がもたらす恩恵とそれにともない間われることになった生命の意味について、基本的概念とその問題点の学びから生命倫理学に関心をもち考えを深められるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と生命倫理：生命の質（柴田）
2	インフォームド・コンセント（柴田）
3	周産期医療と生命倫理（松本）
4	小児期の医療・保健と生命倫理（二宮）
5	尊厳死（川本）
6	安楽死（川本）
7	終末期ケア（川本）
8	パターナリズムと患者の権利（小林）
9	自律とwell-being（小林）
10	専門職の役割・責務（小林）
11	医療資源の配分（柴田）
12	パーソン論（柴田）
13	ケアと生命倫理（柴田）
14	倫理の源を考える：規範倫理学の時代（村田）
15	倫理の源を考える：応用倫理学の発展（村田）

【履修上の注意事項】

レポート発表、グループワークを行なうので積極的に授業に参加をすること。課題に対しての自分の意見を準備しておくこと。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

『生命倫理学を学ぶ人のために』（加藤尚武・加茂直樹編）世界思想社

人間工学

担当教員 西島 衛治

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、日常の生活環境の整備計画を行う上で「人間工学」的視点がどのように利用できるかを中心に行う。特に、受講する学生が、高齢者や障害者の心身の状態を踏まえた日常生活環境整備のあり方が理解できることを講義の核心とする。

【授業の展開計画】

看護業務や介護福祉業務、またリハビリテーション業務などのコメディカルとしての業務において、身体の負担を軽減する方法を人間工学やボディメカニズムの視点から理解する。また、医療工学(ME)器具、ベッド、椅子、衣服、機器や道具が人間工学的にどのような配慮がなされる必要があるかを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	人間工学の成立過程を歴史的背長から理解する(西島衛治)
2	人間工学の研究手法とは何か、またその応用分野について学ぶ(西島衛治)
3	人間工学を理解するうえで必要な基礎資料を学習する(西島衛治)
4	人間工学がどのように家具全般へ応用されているかを理解する(西島衛治)
5	人間工学がどのように「いす」への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
6	人間工学がどのように「ベッド」への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
7	人間工学がどのように「機器」への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
8	人間工学がどのように「衣服」への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
9	人間工学がどのように「履物」への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
10	人間工学がどのように「住宅」への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
11	人間工学がどのように高齢者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
12	人間工学がどのように障害者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
13	人間工学と関連分野(リハビリテーション工学)との関係性を考える(西島衛治)
14	人間工学と関連分野(福祉環境マネジメント論)との関係性を考える(西島衛治)
15	人間工学と関連分野(福祉環境工学)との総括的な関係性を考える(西島衛治)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分) 【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図や表に整理する。(120分) 【その他のアドバイス】講義の中でノートを作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

【成績評価の方法】定期試験が主体・レポート・質疑応答参考 【評価の基準】試験成績が80%。出席を重視、試験とレポート成績など20%の合計

【テキスト】

小原三郎著「新版 暮らしの中の人間工学」実教出版、2015年

【参考文献】

小川鑛一著「イラストで学ぶ看護人間工学東京電機大学出版局、2011、全 208 ページ

物理学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

物理学は、自然科学の中で最も基礎的な学問分野で、その学修(習)により、身近な自然現象が理解できるようになるだけでなく、事実に基づき論理的思考力、既知の事と未知の事を区別して考える分析的思考力を身に付けることができる。それらの力は、他のすべての科目の学修(習)を進める際の力になる。

【授業の展開計画】

教科書に沿って、基本的に以下のような計画にしたがって進めます。

週	授 業 の 内 容
1	力のつり合い (力の表し方, 力の合成・分解, 作用反作用, 力のつり合い)
2	大きさのある物体 (質点と剛体, 力のモーメントとつり合い, 圧力, 浮力)
3	運動の表し方 (速さ, 速度, 速度と移動距離, 加速度, 等加速度直線運動)
4	運動の法則 (運動と力, 重力加速度, ニュートンの運動の法則, 運動方程式を解く, 重力による運動)
5	いろいろな運動 (張力が働く場合, 摩擦力が働く場合, 空気抵抗がある場合の運動)
6	いろいろな運動 (等速円運動, 等速円運動の表し方, 等速円運動の例)
7	いろいろな運動 (単振動, 単振動の例)
8	仕事 (仕事とはなにか, いろいろな力のする仕事, 力の大きさが変化する場合の仕事量)
9	エネルギー (エネルギーとは何か, 運動エネルギー, 位置エネルギー, 力学的エネルギーと保存)
10	運動量 (衝突, 力積, 運動量, 運動量保存の法則, はね返り係数, 直線上の衝突, 床と斜め衝突)
11	静電場 (静電気力, 帯電列, 電気量保存の法則, 電場, 電気力線, 電位, 点電荷による電位)
12	電流と磁場 (電流, オームの法則, 磁気力, 磁場, 磁力線, 電流の作る磁場, 磁場が電流に及ぼす力)
13	直流回路 (電気回路, 抵抗の接続, コンデンサー, 誘電体, コンデンサーの接続, 静電エネルギー)
14	交流回路 (交流電圧, 抵抗, 実効値, コンデンサー, コイル, 共振回路, インピーダンス)
15	原子核と放射線 (元素と原子核, 原子質量単位, 放射線と放射能, 原子核の崩壊, 半減期)

【履修上の注意事項】

講義は、現象や理論の解説だけでなく、問題を解きながら進めますから、覚えようとするのではなく、なぜか?という問題意識を持って臨むことが大切です。そのために、教科書、ノートの他に四則・指数・対数・ルート・累乗・()の計算ができる電卓を必ず用意することが必要です。予習は次の授業でやる教科書の部分を30分程度をかけて読むこと、復習はやはり30分から1時間はかけ、指定された演習問題を解く、授業でやった教科書の部分を読み、ノートに記した図や式、計算を別紙に書きながら納得することが必要です。

【評価方法】

末試験75%, 問題演習25%を総合します。比率は、若干変更することがあります。

【テキスト】

「大学新入生のための物理学入門 第2版」廣岡秀明 著 共立出版

【参考文献】

「第4版物理学基礎」康夫著, 学術図書出版社

「人物で語る物理学入門」(上・下) 米沢富美子著, 岩波新書

情報リテラシー I

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りの情報環境を、自ら、積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに：情報教育システムの利用方法の解説，初期パスワードの変更，教務システムの説明
2	キーボード・日本語入力練習 他
3	E-mailの利活用① ネットワークと電子メールの仕組み，アカウント設定，送信受信チェック
4	E-mailの利活用② アドレス帳の設定，署名作成，返信・転送の演習 他
5	E-mailの利活用③ ファイル添付，ファイル圧縮・解凍の演習 他
6	Wordの基本操作①：段落・ページ設定， 段組，段落番号 他
7	Wordの基本操作②：インデント，ヘッダー・フッター 他
8	総合演習（1）Wordのページレイアウトの演習（レポート提出課題）
9	Wordの基本操作③：罫線，クリップアート，図の挿入とレイアウト 他
10	総合演習（2）Wordの罫線とクリップアートの演習（レポート提出課題）
11	Paintによる作図・描画，Wordの図形描画機能
12	総合演習（3）Wordの図形描画機能の演習（レポート提出課題）
13	WWWによる情報検索・収集とWordによるレポート作成
14	WWWとICT関連法規，ネチケット，情報セキュリティ他
15	まとめと総括

【履修上の注意事項】

この科目は、「パソコンを使って楽しく遊ぶ」だけの時間ではない。学生として様々なことを学ぶために有効な、さらに、卒業した後も情報社会の一員として戸惑うことなく生きていくことができるようにするために必要な情報活用力を身に付ける大切な場である。したがって、学科の専門科目と同じ態度で授業に臨むことが求められる。教員が説明する際は、板書講義科目と同様、ノートをとるなどして傾聴すること。

【評価方法】

課題レポートと、筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は、レポート40%、試験60%。再試験は行なう。

【テキスト】

テキストを開発・作成し、適宜、資料として配布する。

【参考文献】

講義形式の授業の理解については、高校で使用した情報のテキストが役立つ。演習形式の授業の理解については、適宜紹介する。

情報リテラシーⅡ

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を、自ら積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Excelの応用① 複合グラフ, 散布図, 近似直線 (回帰直線)
2	Excelの応用② オートフィル, 絶対参照と相対参照
3	Excelの応用③ 日付・時間の表示形式 他
4	Excelの応用④ 様々な関数の利用・関数の検索
5	Excelの応用⑤ IF関数とIFの組合せ, COUNTIF, SUMIF, AVERAGEIF
6	Excelの応用⑥ ピボットテーブル
7	Excelの応用⑦ 並べ替え
8	Excelの応用⑧ フィルター
9	Excelの応用⑨ 検索, 置換
10	Excelの応用⑩ 条件付き書式
11	ExcelとWordのデータ連携
12	Web上のデータのExcel, Wordでの利活用
13	PowerPointの基本① スライド作成, デザイン・配色, スライドショー
14	PowerPointの基本② スライドの切り替え効果, 図・表・グラフの挿入
15	PowerPointの基本③ オブジェクトのアニメーション, ハイパーリンク

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は、事前に予習をしておくこと。また、講義中はノートをしている時間はないので、復習する中で自分の理解を確かめながら、手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと、筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は、レポート40%、試験60%。再試験は行なう。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

講義中に、適宜紹介する。

数学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

私たちは溢れるばかりの情報に囲まれて生きている。そのような中では、見るもの、聞くことをはじめ、多くの情報を分析し、解析し、合理的に判断することが大切である。この講義では、数学の基礎を理解し、問題演習を通して、そのために役立つ「論理的思考力」や「数学的思考力」を身に付けることができる。そのような力を身に付けると、問題の所在を見出すのに必要な分析的視点や、分析した結果を統合し問題解決に結びつける統合的視点をも身に付けることができる。したがって、数学の学修は多くの科目の学習の基礎として大切である。

【授業の展開計画】

1. 「数学」イントロダクション
2. 度数と分布
3. 平均値のいろいろ
4. 比と比率
5. 漸化式と数列
6. 様々な関数
7. 指数関数・対数関数
8. 平均変化率と微分係数
9. 増減表と関数のグラフ
10. グラフの描き方・読み方
11. 微分と積分
12. 確率と分布
13. 根元事象と場合の数
14. 理論的確率と期待値
15. 連続事象の確率と期待値

【履修上の注意事項】

講義中のノートをしっかり取りましょう。「数理的な思考」を身に着けるには、講義中の演習やレポート課題を自分の頭で考えてみる事が大切になります。教科書は使わないので、予習は30分程度でシラバスの授業計画を見て次回の授業のテーマについてインターネットで調べる、復習は30分から1時間をかけ、授業のノートを再度よく見て、ノートに写しながらでもよいから自分で展開する、出された問題を解くなどをしましょう。

【評価方法】

平常点：定期試験 = 1：4で評価します。

【テキスト】

使いません。（必要に応じてプリントを配布）

【参考文献】

「大学生のための基礎シリーズ 数学入門」東京化学同人、「Primary大学ノート よくわかる基礎数学」実教出版。
「高校数学+α：基礎と論理の物語」共立出版、「忘れてしまった高校の数学を復習する本」中経出版。

化学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

将来、医療技術系のスタッフとして社会で活躍する皆さんは、人体の構造と働きや医療器具・医薬品などについて正しく理解し、これらの知識をもとに疾病の予防や回復のための対処法についてよく考え、的確に判断をすることが必要になる。そのために、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学など専門基礎分野や専門分野の科目を学修しなければならない。本科目を受講することにより、医療系で重要かつ必須の化学的な基礎知識を身につけ、専門基礎分野や専門分野の科目の内容を、科学的（化学的）により深く理解できるようになる。

【授業の展開計画】

この授業では、初めに物質を構成する目では見えない主な粒子、原子、分子やイオンの成り立ちを知り、物質中に見られるこれらの粒子の結合の仕方（化学結合）を理解する。次に、化学や物理で決められている原子、分子、イオンの量的な取り扱い方を知り、物質の状態変化や化学的な変化（化学反応）を量的な変化として表す方法を学ぶ。また、医療と関係の深い物質の濃度の表し方やその状態に関する現象（原理と法則）について学び、さらに主な物質（酸化剤・還元剤、酸・塩基）の性質とその定義、反応の理論についても理解する。

週	授 業 の 内 容
1	物質を構成する見えない粒子（原子）を想像する — 元素とその原子の構造（原子核と電子）
2	原子の性質は原子が持っている電子で決まる — 原子の電子配置と周期性
3	原子が物質のもとになる粒子（イオンと分子）に姿を変える理由 — オクテットルール
4	物質中の原子どうしの手のつなぎ方を見る — 化学結合（イオン結合と共有結合）
5	原子・分子・イオンの質量（重さ）と物質量を考える — 化学量と物質量（モルmolと当量Eq）
6	原子・分子・イオンの質量（重さ）をモルmolで表現する — 物質量（molとEq）の換算方法
7	水溶液の濃度 — 百分率（%）とモル濃度（mol/L）、その他
8	水溶液の性質とヒトの血液 — 蒸気圧と浸透圧
9	物質が姿を変える — 状態変化と化学変化そしてエネルギー変化
10	反応の速さと進む方向の偏り — 可逆反応と化学平衡
11	酸化するものと酸化されるもの — 酸化と還元、酸化・還元反応の理論
12	ヒトは生きるために酸素を必要とする — 生体内での酸化・還元反応
13	酸性を示すものとアルカリ性をしめすもの — 酸と塩基とpH、酸・塩基反応の理論
14	ヒトのからだと血液のpH — 緩衝液とpH
15	ヒトの細胞内はコロイド溶液 — コロイド溶液とその性質

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で化学を履修しなかった、化学を苦手としていた、化学が好きで履修したがもう一度学び直したい学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受講したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。授業の最初か最後に、皆さんの理解度を確認するための小テストを行いながら、「わかること」を「楽しめる」丁寧な講義を行う。

【評価方法】

定期試験 80%、学習態度（確認小テストを含む）20%

【テキスト】

食を中心とした化学（第3版）（北原重登ら、東京教学社）

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - （齋藤勝裕ら、裳華房）
まるわかり！基礎化学（田中永一郎ら、南山堂）